



MBニュース



【2020年度産乾燥メンマ状況】

丸松物産株式会社

2020年度産新物乾燥メンマは例年通り9月から買い付けが始まりました。2019年度産が極端な減産と中国国内需要の影響により大幅な価格の上昇となり、乾燥メンマ原料の欠品も心配されました。今年度もシーズンが始まった9月当初は日本向けの需要が旺盛で価格についても高値で推移していました。ただ11月頃から日本からの受注も落ち着き、価格も例年に近い水準になりました。しかしながら依然として「螺螄粉」(ロウシフン)と呼ばれる中国で人気の麺料理のトッピングに発酵した生メンマが使用され、レストランやネット通販でも好調のメニューのようです。昨年に比べ「螺螄粉」(ロウシフン)市場は30~40%拡大しており、中国国内の需要は引き続き堅調と言えるでしょう。



乾燥メンマの生産量は、広東地域に関しては当初予測していた数量の10%減に、乾燥メンマ第二の産地である広西地域は当初予測していた数量の50%減産となりました。今年度2月末時点で市場にはまだわずかな原料が残っていると思われませんが、価格は予想より10%高い水準になっています。



2020年は世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい、各国の経済に打撃を与えています。中国は一早く収束の方向に向かい、国内需要が堅調で2020年の中国GDPは2.3%のプラス成長だったと言われています。2020年度産新物乾燥メンマは2019年ほどの減産ではなかったものの、価格については中国国内需要がけん引し、大幅な価格ダウンには繋がりませんでした。

【2021年産孟宗筍生産前状況】

今年度の孟宗筍は当り年で豊作という予測がされています。しかし空缶価格が昨年に比べ11%、燃料価格が30%、そして人件費が10%も上がっています。また、春節前に懸念されていた中国国内のコロナの拡大感染も収束できており、中国国内のフレッシュ孟宗筍原料の販売は今後好調になると予想されます。3月中旬より各原料工場が本格的な生産に入りますのでこの紙面にて再度お知らせします。

【海上輸送におけるコンテナ事情】

世界的なコロナ禍の中、世界中でコンテナ不足が深刻化しています。例えば中国では輸出したコンテナがコロナ禍が原因で各国の港湾労働者・コンテナ陸送運転手等の労働時間が制限されているため、輸出先の国々でコンテナの滞留時間が長くなっています。結果として中国から輸出した海上コンテナが再び中国に戻ってくるのが大幅に遅れ、中国では輸出用コンテナが不足しています。これは日本を始め世界中で起きています。

上記に伴って海上運賃も毎週変動しており、現在ではコロナ禍以前と比べ海上運賃は4~5倍にもなっています。また、為替に関しても中国人民元が昨年6月までは対米ドル7.2円で推移していましたが、現在は6.5元以下であり、10%程度「元高ドル安」になっています。これにより中国の輸出入収支も悪化していると言われています。この状況はもうしばらく続くものと思われます。

【お勧め商品情報】

	商品名	下北メンマ1.5kg	
	商品説明	無化調・無漂白の塩メンマ。 角材風の形状で、本数管理し易いのもポイントの一つ。 ※付着塩 約100g	
	規格	1.5kg × 10	
	賞味期限	製造日から10ヶ月	
	戻し方 (当社推奨)	①付着塩を洗い流す ②約10ℓの水を沸騰させ、火を止めて1時間放置します。 ※②×2で塩分は、ほぼありません。	